

平成17年9月16日

会員各位

第三回相談会のお知らせ

「脳卒中から助かる会」

代表 上野 正

同 吉田 孝

急に秋らしくなって来ましたが、皆様には如何お過ごしでしょうか？

脳血管医療センターの機能検討会議も8月23日に終わり、報告書が市へ提出されました。一部には私達の主張が認められたものの、とうてい市民の命や健康を守るという方向ではなく、これからも目が離せません。

そこで今回はそのご報告と、今後の運動の方向を話し合うため、下記のように相談会を開きます。どうかご参加下さい。

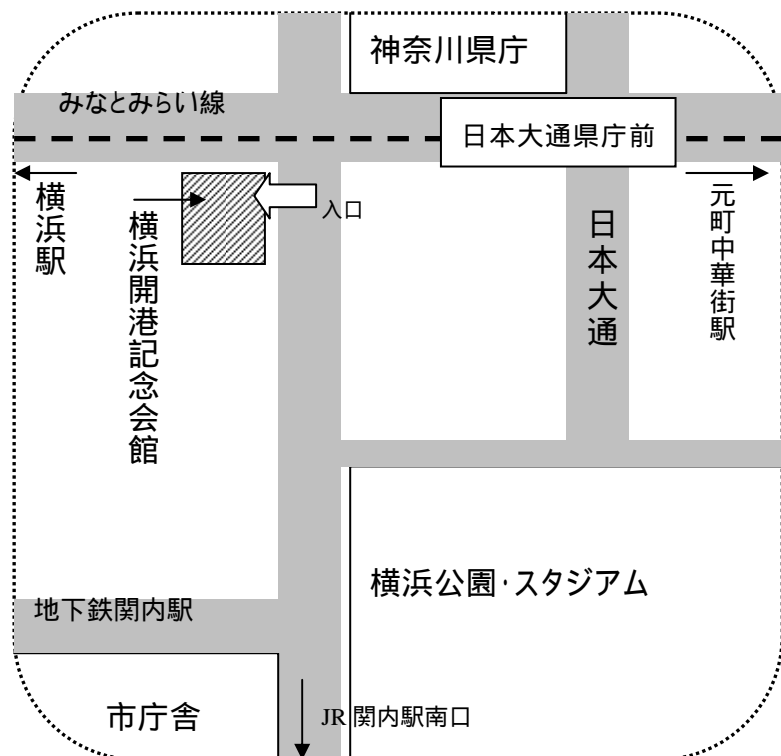
そのあと、市庁舎に1万4千近い署名を届けることや、その後も計画しています。

日時：9月27日（火）午後1時より

会場：横浜開港記念会館 2F 9号室（電話 045-201-0708）

行き方

- ・みなとみらい線
「日本大通・県庁前」下車
- ・JR 桜木町駅より中華街方面
バス「日本大通り・県庁前」
下車
- ・JR 根岸線または市営地下鉄
関内駅下車徒歩6～700m



なお、正面入口にはエレベーターがありません。エレベーターご利用の方は事務室（一階ですが、そこ至るまでに階段が少しあります）に声をかけると、他の入口を開けて案内してくれるそうです。必要な方は、あらかじめ私どもにご連絡下されば、頼んでおきます。（上野：045-621-0398）

検討会議について

8月23日検討会議の報告書が市に提出されました。内容は、

- ・ 脳血管医療センターの救急は当面は残すとはいうものの、
- ・ 救急患者はまず総合病院に運び、そこで脳卒中だと判ってから専門病院に運ぶのが良い。
- ・ 十分訓練された救急隊が脳卒中の疑いがあると判断した場合は、脳血管医療センターなどに運んでも良い。
- ・ 脳血管医療センターで受け入れる患者は、南部地域を中心に限る。
- ・ 素人は判断できないので、まず総合病院に行くべき。(直接脳血管医療センターに行っ
てはいけない)
- ・ センターは直接の医療を提供するよりも、情報提供を中心にする。
- ・ センターの急性期用病棟110床のうち81床を回復期リハビリ病床に転用する準備をする。
(1/4に減らしてしまう)

など、

センターの救急利用を制限し、なるべく総合病院に行かせようとしている。

——→ これでは手遅れになる

急性期治療を減らし、回復期リハビリを増やしたり、他の仕事をさせようとしている。

——→ なるべくセンターの急性期高度治療を受けさせない。

センターが救急や急性期治療をたくさん引き受けると総合病院は困るのでしょう。
救急患者が来れば総合病院は儲かる。他の病院がやりたがらないリハビリはセンターで、
ということでしょう。

これでは、「患者や市民などどうなってもかまわない」ということです。

これからは、この報告書を元にして市の方針を決め、市会や市民の意見を聞いた上で、
具体案を作り、市議会にかける事になるようです。

そこで・・・

「市民の意見」として、会から意見を提出したいと思います。

そのほかに、出来るだけ多くの方に思い思いのご意見を、ご自分の言葉で書いて出し
て頂きたいので、よろしくお願い致します。募集があつてから一ヶ月以内ということ
ですので、募集の公示があつたら連絡して欲しい方はお申し出下さい。

Fax がある方は是非番号をお知らせ下さい。その他の方は、はがきでお知らせ致しま
す。

松岡先生のこと

8月26日、会員有志が人事委員会に出向き、「公開審議」を求めました。会員の加藤秀子さんが中心となり、「松岡先生を支援する会」が結成されました。別紙をご覧ください。

亀田さんのこと

横浜市は外科医4人は全く悪くなかったと主張しているそうです。では、昨年秋のあの謝罪と関係者の処分は何だったのでしょうか？

11月2日に書類のやりとりが非公開で行われるとのこと。

センターでは

今年一月、福島センター部長（消化器外科）と同時期に、市大病院から送り込まれた神経内科の山口滋紀部長によって、大変な被害を受けた会員がいます。

7月末、手足、顔面にかなりのしびれとマヒを感じてセンターに行ったところ、担当の山口医師は検査どころか診察もせず、32時間も前に別の医師が診た時のMRI画像を見て、「何でもない」と言い張り、家に帰した。翌日、立ち上がれない状態にまで病状が進み、救急車でセンターへ。別の医師の懸命な治療によって幸い退院されましたが、手足にしびれと痛みは取れず、歩行も困難。口のしびれのため、食事の時頬の内側を噛んでしまうため腫れて痛くてたまらない、など大変な生活を送って居られます。

素人でも脳梗塞ではないかと判ったのに、山口医師はどうして放置したのか？あの時、すぐ検査をして入院治療をしていれば、こんな事にはならなかった筈だ。奥さんは「悔しくて、悔しくて」と、院内にある投書箱に投書されました。

センターでは、7月に神経内科医の一人が任期が来て大学に帰られ、10月からはもう一人大学に帰る予定とのこと。その後を埋める予定はわかりませんが、山口医師のような困った人で埋められたら、患者はどうなるのでしょうか？

外科手術は土・日は出来ませんが、今のところ救急はいつでも受け付けています。しかし、それも危うくなると、センターの機能が大幅に縮小することになります。十分注視して、対応していかないと大変なことになります。

署名の締め切り

急なことですが、今回は9月22日と致します。よろしく御願い致します。